書 評 Book Reviews

□御巫由紀（解説），大作晃一（写真）：**野ばらハンドブック** Yuki Mikanagi (text), Koichi Osaku (photo): **The Handbook of Wild Roses in Japan** 新書判．152 pp. 2019. 文一総合出版．¥2000＋税．ISBN 978-4-8299-8136-8 C0645.

本書は書名のとおり，野外でも片手に持って参照できる，上品な体裁の日本産バラ属のハンドブックである．同書によると，日本には12種3変種1品種あるとのこと．固有種はアズマイバラ，サンショウバラ，タカネバラ，ミヤコイバラ，フジイバラ，モリイバラ，ヤブイバラの5種である．日本産のバラでは自然交雑種に，そして中国，ヨーロッパ，北アメリカのバラにも簡単に触れられている．

日本産各種の説明では，属内分類の順で，全体像，分布図，花と萼筒，葉，果実，生体写真，特徴，コラムという構成になっている．軽妙な御巫氏の解説と息を呑むような大作氏の写真がよくマッチしている．写真はバックが白地のため，バラ属の腺毛が鮮明に見える．

コラムの内容は興味深いものだが，一読者としてはもう少し書き込んでいただくと良かったように思うところもある．例えば，43ページのテリハノイバラの学名の項目で，永年用いられてきた学名 *Rosa wichuraiana* Crép. がなぜ廃棄されるに至ったか，などである．因みに，この問題を考察された大場秀章氏によると，上記の学名は裸名であるためという（本誌 **75**(3): 148–163, 2000）．

分布図は分布地点を正確に反映させたものではなく，分布する都道府県の全体を着色したもののようだ．76ページのフジイバラの項目では，分布に関する解説は分布図と一致しない．文献情報があるものの現状が確認されていない産地があるためだろうか？巻頭の形態用語の説明では英語が併記されているが，英語の綴に若干の誤りが見られるのが惜しい．学名にもわずかながらミスプリントが散見される．

本書はバラ好きのみならず，山野草のお好きな方々の愛蔵本となるだろう．

（門田裕一 Yuichi Kadota）

□谷本雄治（文），大野八生（絵）：**牧野富太郎ものがたり：草木とみた夢** Yuji Tanimoto (text), Yayoi Oono (illustration): **Makino Tomitaro Monogatari: Kusaki to Mita Yume** A4変型判 (264 × 218 mm)・上製．32 pp. 2019. 株式会社出版ワークス．¥1600＋税．ISBN 978-4-907108-32-8.

本書は「日本の植物学 / 植物分類学の父」牧野富太郎の生涯を描いた伝記絵本である．植物が大好きな一人の少年が，日本を代表する植物学の大家となるまでが描かれている．「好きこそものの上手なれ」とは少し違うかもしれないが，心底熱中できるもの・ことがあると，人は艱難辛苦を乗り越えて行けるものなのだと感じさせられるのではないだろうか．小学校高学年以上が対象の絵本とのことだが，本書は随所に田中伸幸氏（元 高知県立牧野植物園，現 国立科学博物館植物研究部）の解説がちりばめられ，牧野富太郎に関するエピソードを知ることができ，大人も十分に楽しむことができると思われる．植物学とあまり縁のないお知り合いや親類の子供たちに，日本の偉人の伝記絵本として紹介いただくのもよいかもしれない．牧野富太郎の生涯・業績に興味を持たれたのであれば，高知県立牧野植物園を訪れることをお勧めする．牧野富太郎について，より詳しく，絵本がぼかしたことまで学ぶことができるだろう．

本書には様々な植物が描かれているが，全てに和名が付されているわけではないのでご注意を．植物研究雑誌の愛読者諸氏には無用な心配であろうが，読み聞かせの際には，「これなあに？」攻撃への対策が必須だろう．予め調べておいて「何でも知っている」という評価を狙うもよし，一緒に図鑑から探すもよし．近くに生育している植物があれば一緒に見に行くのも親子のよい交流となるだろう．本書を端緒に未来の植物学者が一人でも増えることを願うところである．

（小栗一輝 Kazuki Oguri）